

6. 勞働生活の目的としての、時世の進歩の上で培はれた環境の中で、仕事を以て

大自己階級社会の、此れと云つた公認の西策を講ずる時、既に

業として、その生活を

6. 欧米文化建設のため、最も努力を、今までの精神の解と其の
覚醒期、今までの運命幸福を、何と云ふ必要も、得て、此の労働助油
今も助油、

13. 7. 18
389

七月廿日

長崎交通労働組合大会開催の要を件

首魁大倉、本月十日午後七時三十分、長崎市の花鳥所

集會の、此の集會の、此の集會の、此の集會の、此の集會の、

此の集會の、

進んで大倉の、改組の、進んで大倉の、改組の、進んで大倉の、改組の、

少敷の、由の、宣問の、流念の、少敷の、由の、宣問の、流念の、

五枚書

心

一會同者

此の集會の、此の集會の、此の集會の、此の集會の、此の集會の、

形を、今も、今も、今も、今も、今も、

二南会録五枚書